

教育会だより NO.3

令和6年5月28日
公益社団法人諏訪教育会
会長 櫻井 洋

5月18日(土)、諏訪市文化センターにおいて諏訪教育会定期総集会在行われました。今年度は、久しぶりに研修講座もおこなわれ、各会場で楽しそうに、そして真剣に研修に取り組む会員の姿が見られました。今回の教育会だよりでは、会長挨拶の抜粋と、7つの委員会が主催した各講座の様子を紹介します。



令和6年度 諏訪教育会定期総集会 会長挨拶<抜粋>

風薫る5月となりました。おかげ様で明治15年設立の「諏訪教育会」も、今年度は142年目を迎えました。さて、本年度の諏訪教育会テーマは、「より深め、より開き、より据える～前へ 私たちの未来に繋げて～」とさせていただきます。昨年度、中澤隆一前会長が掲げたテーマ「前へ 新たな未来に繋げて」の「新たな」という言葉を「私たちの」という言葉に代えて継承いたします。昨年度の教育会は、中澤会長の下、コロナ以前の事業の見直しを行い、新たな未来へ向けて力強く前へ進み始めました。バスケットボール大会をより親睦の大会にし、61歳以上の会員の会費規程改正を決定しました。今年度も「前へ」進みます。今年度はバスケットボール大会を11月に実施し、伝統的に土曜日開催であった「諏訪の子どもや教育を語る会」を会員の声を受けて平日開催とします。

「教育会とは何か、会員のみなさんはどうお考えでしょうか?様々な考えがあつていいと思います。私の考えですが、「教育会は私たち教職員の、自由と自主のための心の拠り所」だと思っています。私たち教職員は、行政と法の下で身分を保障されて働いているわけですが、そこに安住することなく、一步前へ進んで、もっと自由に、もっと自主的に研修を深めることが大切だと思います。それは多くの仲間と繋がる楽しい時間でもあります。そして、その、自由・自主の拠り所となるのが「教育会」だと思います。今年度は、公益化から12年目です。コロナ明けの今こそ、教育会について改めて考えてみましょう。コロナの時代を経て、私たちは外に開くことの尊さや、多くの仲間とつながることの喜びを身をもって感じました。この体験を忘れずに、前へ進みましょう。サブテーマにある「私たちの未来」とは「社会一般の方々、子ども達、そして私たち自身の未来です。」公益法人であることへの自負と誇りを胸に、自由と自主を大切に協働的に私たちの未来へ向かって、前へ進めたらと願っています。

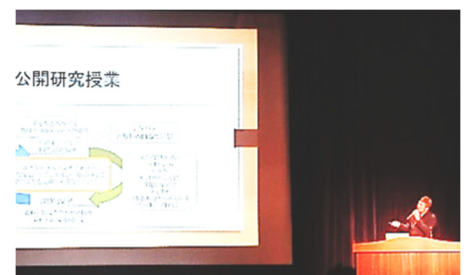
さて、本日は、会員の皆様から要望の高かった「参加型」の研修です。本日の研修講座を計画していただいた、7つの委員会の先生方、そして音楽発表をしてくださる「諏訪教育会合唱団」の先生方に心よりお礼申し上げます。では、本日は5年ぶりに、諏訪教育会らしい研修を楽しみましょう! 以上です。ありがとうございました。

令和6年5月18日 諏訪教育会会長 櫻井 洋(長地小学校)

各研修講座の様子から

<特別支援教育委員会> 「特別支援教育委員会の実践報告」(大ホール)

ここ数年間で、特別支援教育委員会が取り組んできた研究内容をまとめて発表しました。特別支援教育における、カリキュラム・マネジメントや資質・能力など、学習指導要領や解説などの文面から、委員会としての考えをお伝えしました。また、授業公開において、参加者から出された特別支援教育の大切な考え方もお伝えしました。やはり、個別の指導計画の作成が重要であり、その子にあった自立活動の内容を決めだし、適切な支援を行うことが大切だと思っています。



<登山の菜委員会> 「そうだ八ヶ岳に行こう」(大ホール)

登山の菜委員会は八ヶ岳の魅力を伝えるべく、次の4点を発表しました。まず、登山の菜委員会のレジェンドこと岡谷東部中の鮎沢先生から、登山の菜「八ヶ岳」の紹介を。続いて、次世代を担う若きエース、永明中の名子先生、永明小の柳沢先生、境小の大日方先生から、登山のバックギンや行動食の紹介を。そして、鮎沢先生と双壁をなす諏訪南中の寺島先生から、八ヶ岳が見える絶景の里山の紹介を。最後に、原中学校の平塚から、今年度実施する登山講習会の案内をさせていただきました。私たちの発表を通して登山の魅力が伝わりましたら幸いです。「私も八ヶ岳に登りたい!」と思われた方はぜひお声がけください。何より登山の菜「八ヶ岳」の活用をよろしく申し上げます。



< 体育・保健体育委員会 >

「体を動かしながら、『運動会の表現』『ダンスの授業』に
生かせるダンス指導方法を学ぼう」

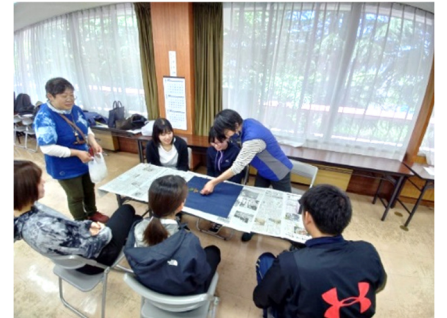
国民的アイドルグループのバックダンサーを務めた経験もあるプロのダンサーの方を講師に、実際に体を動かしながらダンスの指導法を学びました。動きのポイントを言語化し、わかりやすく教えていただきました。基本的なリズムの取り方やステップを学んだ後、それらを組み合わせてひとつの作品に仕上げていきました。最初は硬かった表情や動きも、研修が進むにつれて笑顔が増え、動きも滑らかになっていきました。



< 環境教育委員会 >

「環境教育が、違いがわかり合える人間関係作りや思いやりの心を育む
手がかりに ~ いつでも、どこでも、だれでも ~」

会場に入るとすぐに自己紹介が始まった環境教育委員会の発表。冒頭から参加者を引き込んでいく勢いが感じられました。その後も個人からペア、ペアからグループへと形態を変え、次々と課題を提示していきました。発表が進むにつれ、参加者の緊張もほぐれ、笑顔が増えていったのが印象的でした。天候にも恵まれたので屋外での活動もでき、人や環境を介して他者との関係を築くためのヒントが満載の委員会講座となりました。



< 教養委員会 >

「子どもと取り組む紙工作」

鈴木 清先生を講師に迎え、切り絵の紙工作を行いました。時間内で作品が完成するように、提示された題材の中から選択して作品作りに取り組みました。「総合的な学習の時間で活用できそう」「図工でカッターを使う单元があるのでチャレンジしてみたい」という声も聞かれ、実際に教室でやってみたくなるような内容でした。的確にアドバイスをしてくださる講師の先生と、それを生かし主体的に取り組む参加者の姿が見られた委員会講座となりました。



< 図書館教育委員会 >

「本と人をつなぐ『一会一冊』」

図書館教育委員会は「本と人をつなぐ『一会一冊』ビブリオトークをしよう」と題して、参加者の皆さんがおすすめの本を持ち寄って、ビブリオトークを行いました。参加された方からは、「本を読むことは、本と自分との対話になりますが、ビブリオトークをやってみると、新たな本と出会う機会になるだけでなく、一緒に語り合った人との出会いの場にもなると感じました」といった感想が寄せられた研修会となりました。



< 総合的な学習の時間委員会 >

「総合的な学習の時間を軸にした、教科横断的な学習に取り組んでみませんか」

総合的な学習の時間委員会は「総合的な学習の時間を軸にした、教科横断的な学習に取り組んでみませんか」をテーマに、委員長である小林先生の実践が報告されました。学校前の森を歩いたときに会った「クマザサ」を使ってお茶づくりを始めた子ども達。願うお茶にするために、どれだけの量の葉をどのくらいの時間煎るのか、何のお湯で入れるといいのかを、多くの方に味見をしていただいたり、お茶屋さんをお呼びしてアドバイスをいただいたり。そんな実践報告の後には、参加された方々が、互いの実践における悩みや取り組みについて、時間が足りなくなるほど熱心に語り合う姿が見られた研修会となりました。



研修講座を企画・運営して下さった委員会の皆様、諏訪教育会合唱団の皆様、総集会を

様々なところで支えて下さった社員の皆様、各係の皆様 本当にありがとうございました。